

大相撲観戦メモ

はじめに

鶴竜引退、白鵬休場で横綱は不在の場所。四人の大関の一人はカド番（正代）、もう一人は先場所カド番を脱出したばかり（貴景勝）。大関に復帰した照ノ富士と朝乃山に期待がかかるのはやむなき事態。

新型コロナウイルスによる緊急事態再発出で、幕開けは無観客。やや迫力不足の初日が始まった。

<1> いよいよ初日

無観客の国技館で初日が始まった。

天空海の、やる気があるのかないのかわからないような土俵上の仕草で始まった。少しばかりがっかりしながら見ていると、千代大龍の「叩き込むために突っ張る」ような内容のない相撲を見せられてさらにがっかり。

琴恵光の、稽古で鍛えたことがよくわかるような筋肉の張りと盛り上がり、低く安定した腰の構えて千代翔馬を小手投げに下した一番で、ようやく精気が蘇ってきた。

照強が立ち合いの一瞬の早業で琴ノ若の足を取り、引っ繰り返した。めずらしい決まり手の内に入るが、観客の立場から言うと、「一瞬の決まり手」もよいが「攻防のある取組」の方が面白い。

玉鷲が、頭を下げて応戦する輝を一方向的に押し出した。この秋には37才になる玉鷲、今場所は好調の様子。この辺りまで来てようやく気迫と面白さが表われてきた。

低い姿勢を保てる力士同士の取組である志摩ノ海・遠藤戦は期待していた。しかも両力士とも姑息な手段を用いない相撲姿勢なので期待はさらに深まった。結果は遠藤に軍配が上がったが、清々しさのある取組だった。今場所は遠藤に期待をかけても大丈夫なような気がしたが……。

そして、大方の期待と予想を裏切って、四大関が負けることなく初日が終了した。

しかし……。

<2> 序盤5日を終えて

序盤戦を終ったところで星取表を整理してみた。（全休の力士は除外）

成績	人数	力士名
全勝	1	照ノ富士
一敗	8	貴景勝、正代、御嶽海、高安、阿武咲、英乃海、遠藤、玉鷲、
二敗	12	朝乃山、隆の勝、若隆景、逸ノ城、琴ノ若、隠岐の海、琴恵光、大奄美、千代大龍、魁聖、石浦、千代丸
三敗	6	大栄翔、豊昇龍、志摩ノ海、輝、千代翔馬、宝富士
四敗	10	明生、翔猿、千代ノ国、霧馬山、妙義龍、栃ノ心、剣翔、照強、明瀬山、天空海
五敗	1	北勝富士、

一見すると照ノ富士の一人勝ちのように見える。土俵上の表情や動作を見ていると、目の前の一番を脇目もふらずにこなしている感じがする。しかし、立ち腰での、かんぬきや決めだしなどの乱暴な技や投げ飛ばし等が見られ、危険の香りが漂っている。この先どこまで先頭を走れるかは、相手次第かもしれない。

貴景勝は、まだ自分の得意のパターンが再現できていないし、押し切れずに叩こうとしたり引いたり場面が目立つので一触即発の危険な状態と見られる。

正代は、腰高のまま踏み込みもせずに定位置で胸を出す立ち合いばかりで、体の柔らかさでごまかして勝っている状況なので、期待は出来そうもない。

御嶽海が久しぶりに良い動きをしているが、どこまで続くのかがわからないのが御嶽海の相撲。

高安も良い動きをしているような感じではあるが、御嶽海と同様に終るまでわからない人。

朝乃山は、左上手を外から取ろうとする悪い癖に戻っていて、せっかく差した右も全く生きてこない。大関に昇進する頃に見せた、深く踏み込んで前禪を取りながら前進する相撲はどこへ行ってしまったのか。

阿武咲・遠藤・玉鷲・若隆景・琴恵光が良い動きをしているが、どこまで続くか。

<3> 中日が終わった

中日が終わって、少しずつ景色があきらかになってきた。。

成績	人数	力士名
全勝	1	照ノ富士
一敗	3	貴景勝、高安、御嶽海
二敗	5	阿武咲、逸ノ城、遠藤、隠岐の海、千代大龍
三敗	6	正代、若隆景、玉鷲、千代翔馬、琴恵光、千代丸
四敗	7	朝乃山、英乃海、志摩ノ海、琴ノ若、大奄美、魁聖、石浦
五敗	6	隆の勝、大栄翔、明生、豊昇龍、宝富士、輝

照ノ富士は腰高ながら、上半身をやや前傾して前に出ることによって相手につけている隙を与えないようにしている。もう一腰落とせば安全なのだが、高い腰の位置のままで、心配がつきまとう。照ノ富士を破ることができるのは、前後左右に素早く動くか横から攻めることが出来る力士だろうか。

貴景勝が少しずつ自分の相撲のリズムを取り戻してきた感じがするが、「持続可能な安定性」に辿り着くか否かは不透明。もうしばらく様子を見ないと期待して良いのかどうか分からない。

高安は土俵上の動きから見ると好調を感じるが、腰高の欠点を抱えており絶えず不安はつきまとう。これから大関陣との取組が続くが、どこまで星を伸ばせるか。

相撲の流れや動きを遠景から眺めてみると、御嶽海の相撲が一番安心して見られる内容になっている。

重心位置・押っつけやはず押しのかたち・体全体の動きなど、スムーズな動きになっているが、これがいつ崩れるかわからないので、しばらく注視するしかない。照ノ富士、貴景勝、高安との取組は中日までに済んでいるので、後半戦での取りこぼしがなければ・・・。

つまり先頭集団の四力士には、それぞれ期待値と不安材料があり余談を許さない。後続集団の中には、勝ち残りそうな気配の力士もいるし、まだまだ目が離せない日々が続くそう。

<4> 終盤戦に入る前に

中盤が終わって10日目となり、残すは後半5日間というところまで来て、「優勝争い絵図」が見えてきた。

不安定な体勢のままではあるが、前傾と前進を続ける照ノ富士の相撲の前に立ち足かかる力士が出て来ない。前進をしながらも、「まわしに手がかかれば速やかに力強く引きつける」という相撲の形には威力がある。

貴景勝が貴景勝らしい突き押し相撲を見せ始めてきたが、もはやあと5日しかなく、星の差二つは厳しい状況。

御嶽海・高安は脱落し、大方のファンを「やっぱりね」と落胆させてしまった。

成績	人数	力士名
全勝	1	照ノ富士
一敗		
二敗	2	貴景勝、遠藤
三敗	5	御嶽海、高安、逸ノ城、隠岐の海、千代大龍
四敗	7	朝乃山、若隆景、阿武咲、玉鷲、琴恵光、千代翔馬、千代丸
五敗	6	正代、豊昇龍、琴ノ若、大奄美、魁聖、石浦

初日から腰の下りた、しかも取組中に腰と頭の高さが変わらない安定した取り口が続いている遠藤が2敗のままで残ってきた。ここまで来て、逸ノ城・玉鷲に敗れた黒星が悔やまれる。西前頭8枚目で大関とは対戦しないですむ地位ではあるが、おそらく終盤で照ノ富士・貴景勝と対戦することになるだろう。威力のある押し相撲は苦手なので貴景勝には勝てないかもしれないが、横に食らいついて横から攻める相撲が取れる遠藤なので、照ノ

富士戦には期待が出来る。ことによれば逆転もあるかも・・・と期待の終盤戦。

期待の若手力士の中に、**豊昇龍**が割り込んできた。**若隆景**とともに面白い存在になってきそうな気がする。

<5> 終盤戦 そして終って見たら

10日目を終ったところで**照ノ富士**が星二つの差をつけて逃げきりと思われたのだが・・・。

11日目の妙義龍戦で「鬻をつかむ」という反則で照ノ富士に土が付き流れが変わってきた。妙義龍にかなり攻め込まれて焦りもあっただろうが、無理な投げが不幸な結果をもたらした。

そこへにわかには浮上したのが**遠藤**。安定した質の高い取り口でヒタヒタと走り続けていた伏兵が舞台に顔を出した。貴景勝も終盤になって調子が戻ってきて、遠藤とともに先頭を追う形になった。

14日目、遠藤が土俵際の投げの打ち合いを制して照ノ富士を引きずり下ろしたことで、賜杯争いは千秋楽にもつれ込んだ。そして千秋楽結びの一番の大関同士の一戦を経て優勝決定戦になった。

優勝決定戦を制したのは照ノ富士、大関復帰の場所で4回目の優勝。

東西の最高位の力士同士による決定戦となり、横綱不在の上に不祥事の再発で背水の陣となった相撲協会は何とかメンツを保った形になった。

成績	11日目	12日目	13日目	14日目	千秋楽
全勝					
一敗	照ノ富士	照ノ富士	照ノ富士		
二敗	貴景勝、遠藤	貴景勝、		照ノ富士	
三敗	逸ノ城、 隠岐の海、	遠藤、	貴景勝、遠藤	貴景勝、遠藤	照ノ富士 ☆ 貴景勝 ★
四敗	朝乃山、高安、 御嶽海、若隆景、 千代大龍	高安、逸ノ城、 隠岐の海、 千代大龍	高安、千代大龍	高安、	遠藤
五敗	正代、阿武咲、玉鷲、 琴ノ若、千代翔馬、 琴恵光、千代丸	朝乃山、正代、 御嶽海、若隆景、 琴ノ若、琴恵光、 千代丸	正代、御嶽海、 若隆景、逸ノ城、 隠岐の海、 千代丸	御嶽海、 若隆景、 逸ノ城、 千代大龍、	高安、 御嶽海、 千代大龍、

三賞は、殊勲賞・敢闘賞なし、技能賞は遠藤と若隆景となったが、終盤の最後まで優勝の行方を左右する働きをした遠藤の評価が不充分と感じた。いつものように、私が選んだ三賞を書いて締めくくりたいと思う。

◆私が選んだ三賞 殊勲賞=遠藤、技能賞=遠藤・若隆景、敢闘賞=なし。

<6> おまけのはなし(下ネタでもなく・・・)

相撲の世界では昔から、「ケツのでかい奴は大成する」「太ももが太い奴は横綱になれる」と言われてきた。

この二点に着目した親方に誘われて三保ヶ関部屋に入門した少年が、後に大横綱北の湖になった。

師匠の後日譚の述懐として、「間違いなく横綱になれると思った」を何度か聞いたことがある。

往年の名横綱栃錦のケツは、いつも傷だらけで、傷跡があばたのようになっている「凸凹のケツ」だった。栃錦の弁によれば、ケツに絆創膏を貼っている力士は「豊富な稽古の証明」とのことだった。

お尻の肉(大臀筋)の張り具合を見て、「場所前の稽古の成果が感じられる」と評した相撲解説者が何人もいたので、テレビ機軸ではここに注目をするようになった。

実際に国技館で本物を目にした時には、北の湖のケツの大きさと太ももの太さには圧倒されたし、千代の富士の鍛え抜かれたケツの筋肉の張りにはびっくり仰天した。

個人的なことではあるが、妙義龍の後ろ姿が大好きだ。「扇形の背中」「盛上がったお尻の筋肉」がたまらない。NHK相撲解説の北の富士さんは、大栄翔を評価するコメントの中で「いいケツしてる」と言っていた。

力士を横から眺めると、背中が描く柔らかな曲線の下にある尻の膨らみ具合が描く大きな曲線が影絵のようで

面白い。個人個人の「持って生まれた骨格」や「肉付き」の相違に、それぞれの力士の「生まれつきのもの」と「その後の鍛錬の成果」とが現われているようで面白いし美しい。

現役力士をそんな視点で眺め直してみても、気がついた力士をこの表に分布してみた。

評価部位	立派	さほどでもなし	貧弱	備考
ケツ (大臀筋)	白鵬、隆ノ勝、大栄翔、 若隆景、明生、翔猿、 妙義龍、霧馬山、 志摩ノ海、玉鷲、琴恵光、 石浦	朝乃山、高安、 御嶽海、 北勝富士、貴景勝、 正代、千代ノ国、 栃ノ心、遠藤	照ノ富士、碧山 逸ノ城、輝、 明瀬山、千代丸	

<7> おまけのはなし(今場所の都々逸)

朝の山波曇りて見えず 夕暮輝き照るは富士
 まめにやれども縁遠かりき 一富士二鷹で締めくり
 縁遠いものでピンとは来ぬと 言葉少なに11勝
 落ち武者だらけの高齢十両 若手育てる場になるか